

# 留学体験レポート

国際学部 2年 寺島 和弥

## 1. はじめに

私は、アメリカという自分の国とは全く異なる文化をもつ国で生活することにより、得るものがあるのではないかと考え、この留学に参加した。アメリカを選択したのは、今後も世界で中心的な言語として使われていくであろう英語をよりよく理解したいと思ったからである。

## 2. アメリカでの生活

アメリカでの寮生活は、今までの自分の生活スタイルとは全く違ったものであった。ルームメイトとの部屋の共有や、隣の部屋の住人とのバスルームの共有など、難しい問題もあったが、それについて考えることができたのはいい経験になったと思う。買い物は週に一度に出る無料バスを利用したが、寮の近くには大きな店があるわけではなかったのも、事前に何が必要なのかを考え、また、日本語を使う事ができない中で、どういう英語で自分の要望を通すのかを考えることは、そうした状況下でなければ経験できない、貴重な体験であった。

## 3. 授業について

授業は少人数制を採用しており、今まで日本で受けたどんな授業とも違った雰囲気の中で行われた。CEP 以上に教師と学生の掛け合いが見られ、これは授業の形式の違いというより、学生の授業に対する姿勢の違いのように感じる。

授業で行われた勉強の内容は、時に難しく、時に簡単だった。自分の考えを話すことが求められる点は、日本ではほとんどの場合、試験の際にしか必要のないものであるが、それを普通の授業で求められるのは、外国に来たと感じさせるものだった。

## 4. 課外活動について

課外活動では様々な場所に赴いた。ゴルフを体験したほか、大きな町に行ってショッピングモールを巡ったこともあった。また、催事にはそれにちなんだゲームを行ったり、お菓子をデコレーションしたりと、アメリカならではの風土や文化を体験することができた。なかでも印象に残ったのは最後に訪問したネルソン美術館で、この美術館はニューヨークのメトロポリタンに比べると小さいが、それでも十分な広さを持っており、アメリカの文化に限らず、アジア圏の文化など、様々な文化を取り入れていた。日本にもこうした美術館が増えると嬉しい。

## 5. おわりに

留学をするという事は、自分にとって非常に大きな変化を受け入れるという事だった。昔から新たな環境に身を置くことが恐怖でしかなかった自分が、敢えて留学に踏み切ったという事は、それだけで得るものがあったと考えている。しかし、実際に現地に向かってみる

と、先生や学生の皆さんが大変親切に接してくださり、それが大変大きな励みとなった。また、留学準備期間に少なからぬサポートをしてくださった新潟国際情報大学の先生方、先輩方にも感謝申し上げます。

もしこれから留学をするかどうか迷っている方がいらっしゃるのであれば、取り敢えず、行ってみるのもいいかもしれない。勿論、余裕が無くては出来ないことではあるが、あまりに遊び惚けでもしない限り、その投資は無駄にはならないと私は考える。